

本年6月以降の米国の高温・乾燥と穀物生産への影響

- とうもろこしは、6月以降、コーンベルトの高温・乾燥の影響により作柄が著しく悪化し、米国の生産量は2006年
以来の低水準の見込み。
- 大豆についても、高温・乾燥の影響から米国の生産量は2007年以来の低水準の見込み。

- ・ 米国のコーンベルトでは6月以降降雨がなく、70年
に一度とも言われる高温・乾燥の影響により生育
状況は著しく悪化。
- ・ 米国農務省によれば、とうもろこし・大豆の作柄
は優+良の比率が40%を下回り、1988年以来24年
ぶりの低水準。

優良の比率 (%)

(8月12日現在)

前年同期

とうもろこし **23** (60)

大豆 **30** (61)

資料: 「Crop Progress」 (8/13)

※米国農務省が毎週公表する生育状況（優、良、並、劣、劣悪）の
うち優+良の占める割合

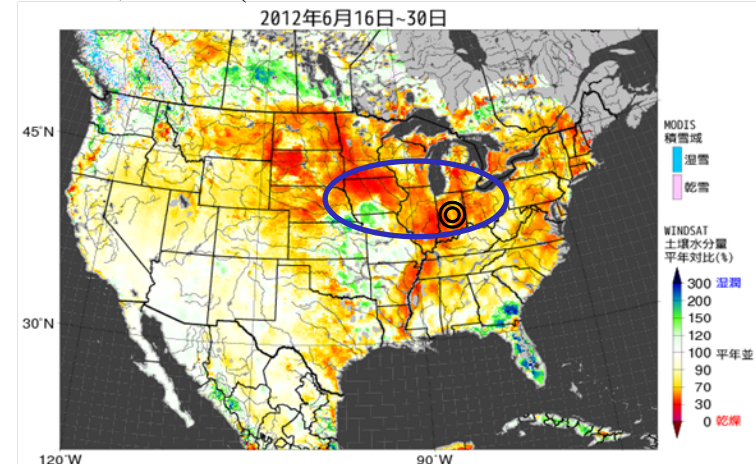
・ 米国農務省は7月に続き8月の需給報告でとうもろ
こし及び大豆の生産見通しを大幅に下方修正。

(百万トン)

	6月	7月	8月	前年度
とうもろこし	376 →	329 →	274	314
大豆	87 →	83 →	73	83

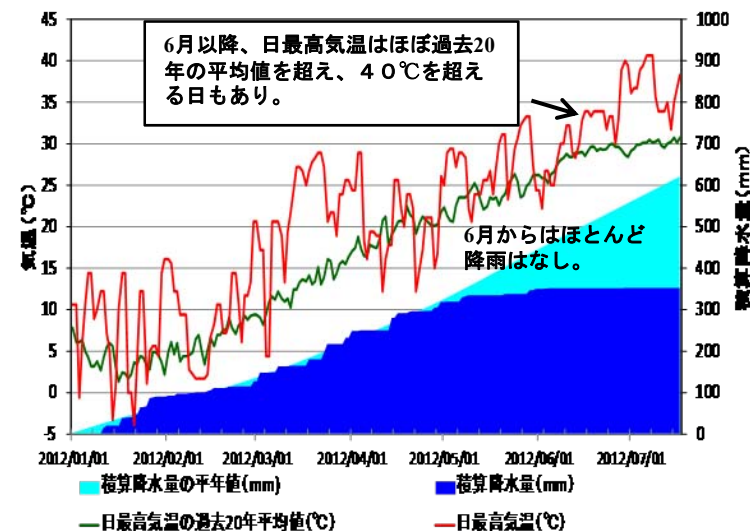
※米国農務省需給報告(WASDE 2012.8.10) による。

図1 6月後半の土壌水分量(青円のコーンベルトは平年の半分以下)



資料: JAXA提供の「WINDSAT土壌水分プロダクト」及び「JASMES積雪プロダクト」

図2 インディアナポリス(◎)の日最高気温と積算降水量の推移



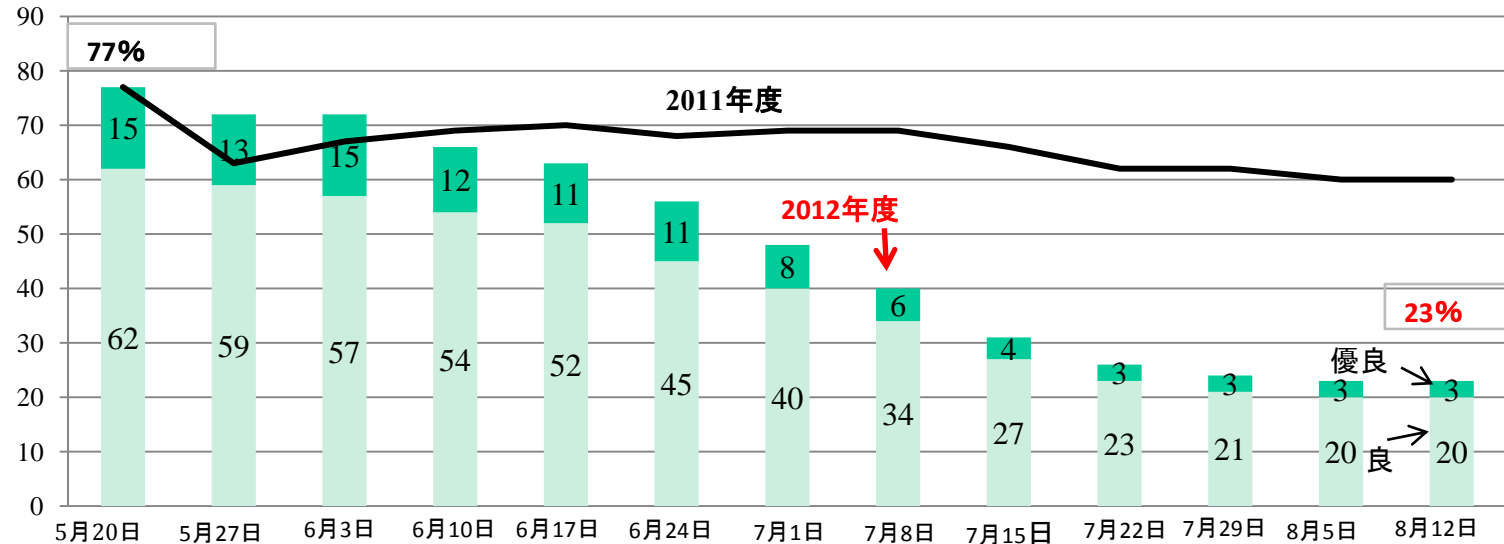
資料: 気象庁資料

大豆・とうもろこしの作況（優＋良）の変化 2012年8月12日現在

●とうもろこしの作況変化

作況（優＋良）の比率は、

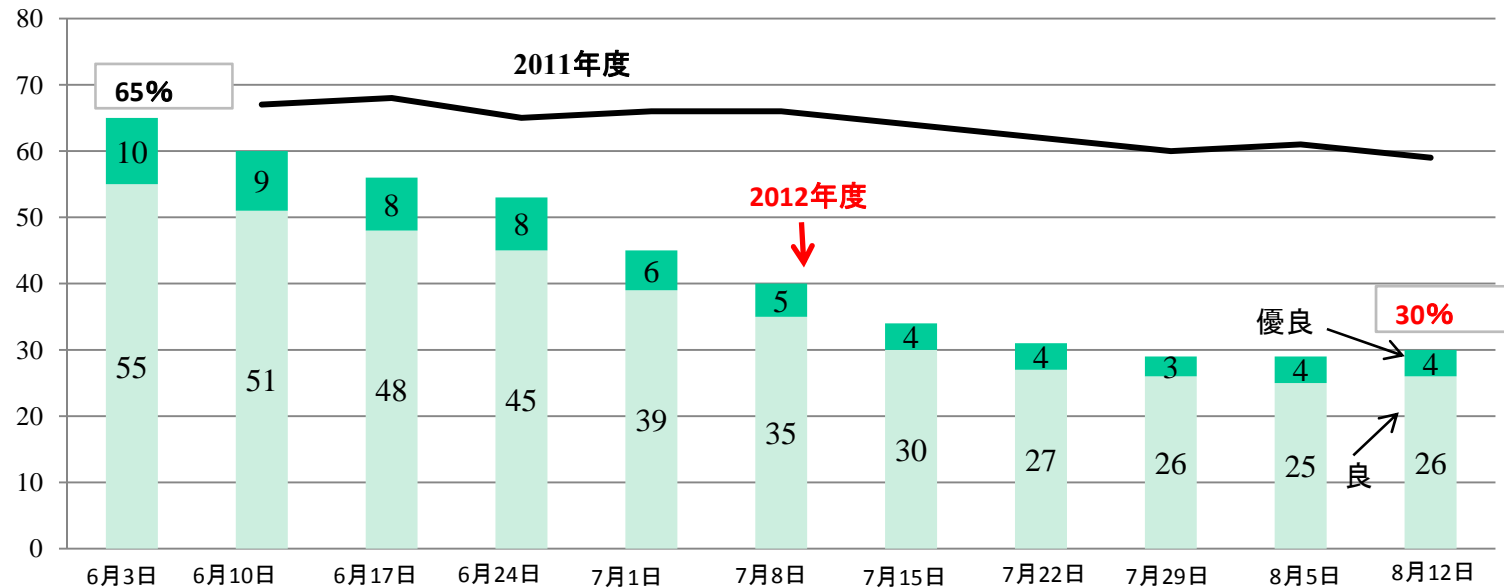
77 → 23 に低下。



●大豆の作況変化

作況（優＋良）の比率は、

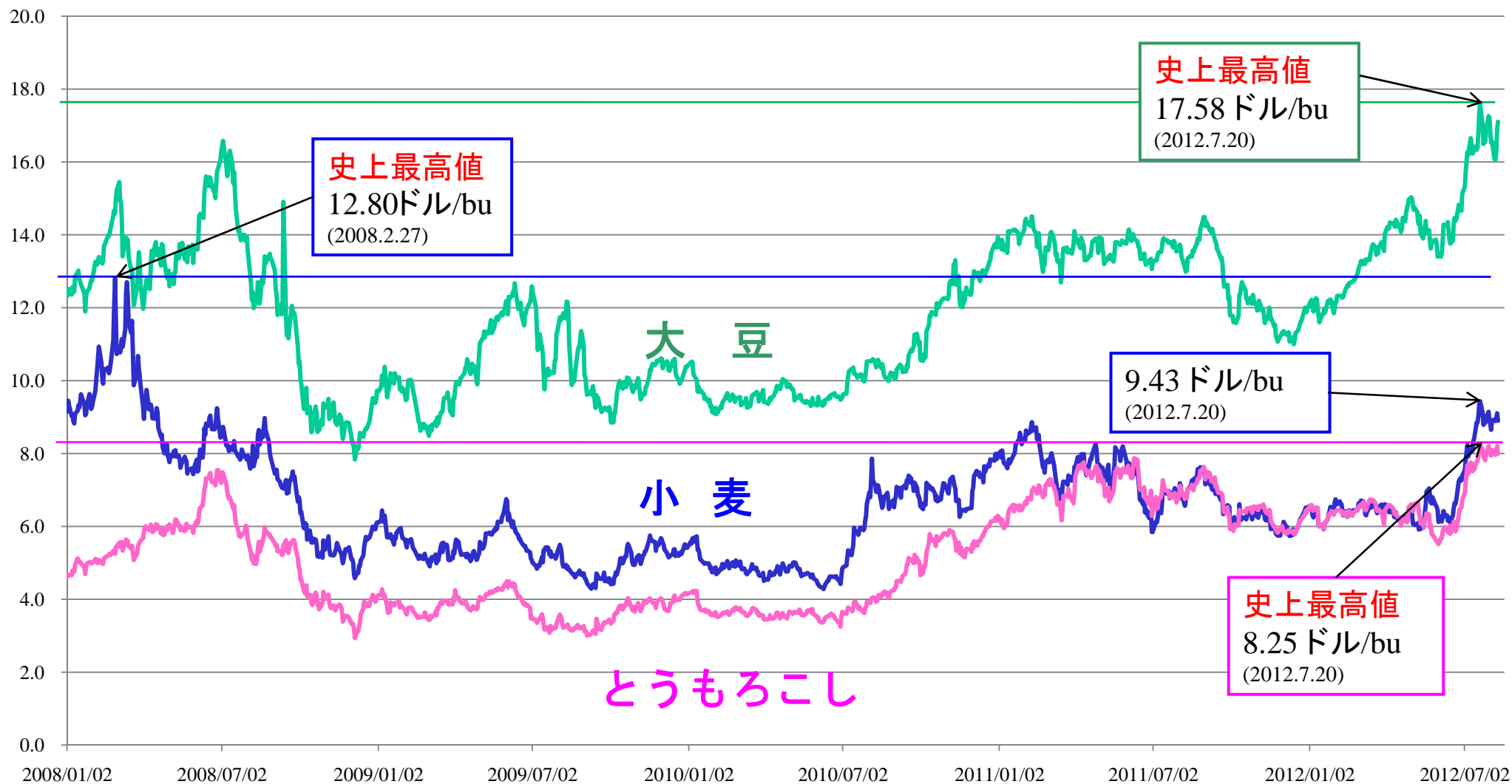
65 → 30 に低下。



大豆・とうもろこしの国際価格の推移（2008年1月以降）

2012年8月10日現在

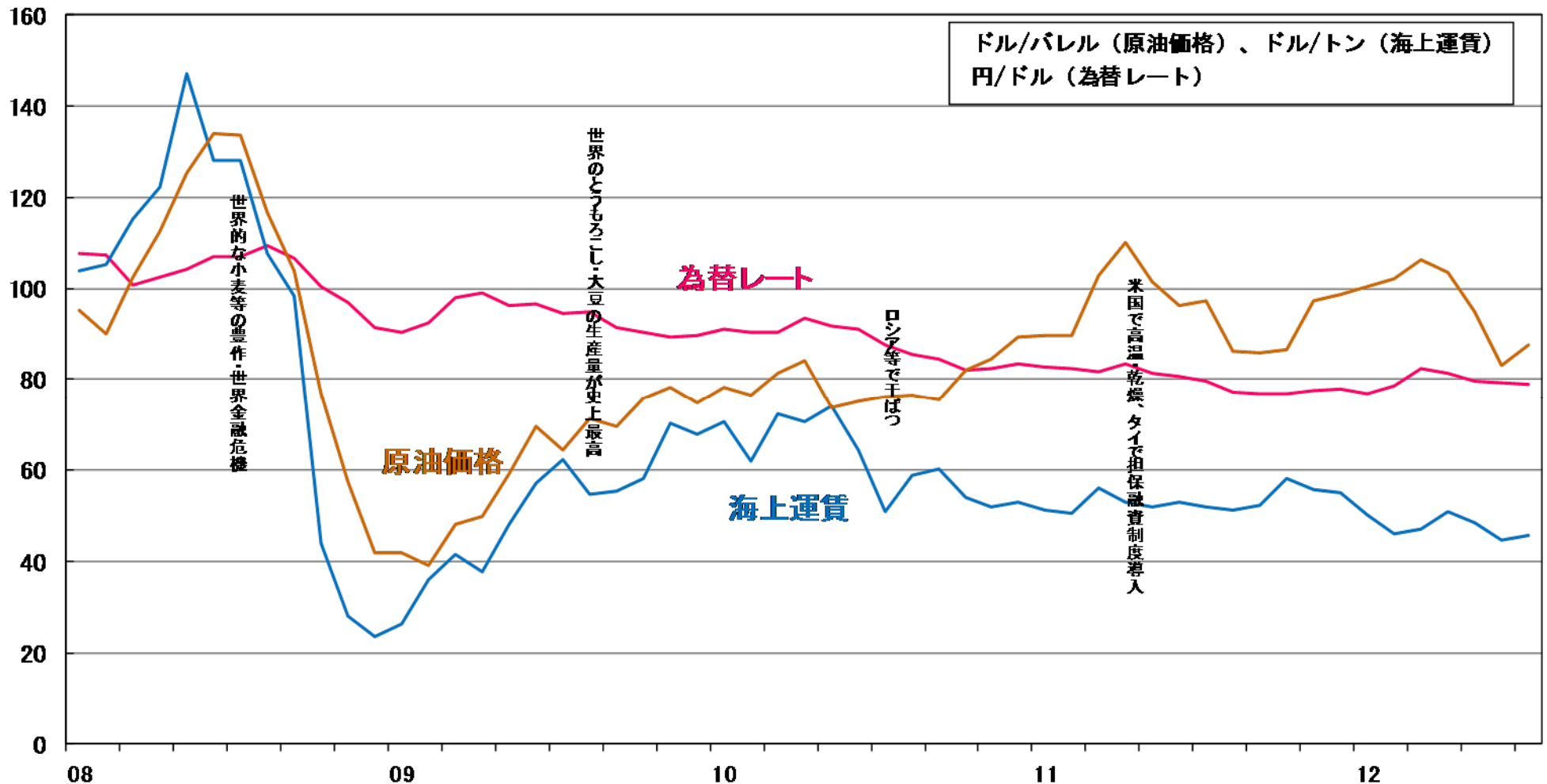
- 大豆は、12月以降、南米の高温・乾燥、中国の輸入需要期待、6月以降、米国の高温乾燥の影響等から上昇し、7月18日、19日、20日と3日連続で史上最高値を更新(20日:17.58ドル/bu)。
- とうもろこしは、2012年6月以降、米国の高温乾燥の影響から上昇し、大豆同様3日連続で史上最高値を更新(20日:8.25ドル/bu)。
- 小麦も、世界の在庫水準は問題ないものの、とうもろこし相場の上昇に連動して、4年ぶりの高値を記録。



原油価格・為替・海上運賃等の影響

- 1 近年、原油価格や海上運賃等の大幅な価格変動が、我が国の食品の原材料コスト・価格に影響。
- 2 原油価格は、2009年初めにかけて大幅に下落した後は、景気回復への期待感やドル安などにより上昇傾向。海上運賃は、直近では新造船の供給増や中国向けの船舶需要の減少等により軟調に推移。

【図】 原油価格、為替レート、海上運賃の推移



資料:「U.S.Energy Information Administration」(原油価格)、「World Maritime Analysis Weekly Report」(米国ガルフー日本間パナマックス級の海上運賃)、日本銀行(為替レート、対ドル円相場)